

指摘事項の→以下は当日の回答内容

※「黄色マーカー」:「細施策の方向性」欄について、文末表現の統一を図るため、事務局にて修正いたしました。
※「水色マーカー」:「指標」欄について、記載内容の統一を図るため、事務局にて指標説明文等の修正を行いました。

全体に係る指摘	担当課	指摘事項	対応状況もしくは回答内容
	事務局(教育総務課)	・前回に比べて、ページが増えて分量が増えてしまうのではないか。 →レイアウトとして見やすくするため、分量は増えてしまうがこの形で行きたいと考えている。 →概要版を簡潔で分かりやすい形で作成いただきたい。	・レイアウトとして見やすくするため、細施策ごとにシートをわけている。分量は増えてしまうがこの形で行きたいと考えている。
	事務局(教育総務課) 【第一章総論】	・2ページ等の「誰一人取り残さない」は「誰一人取り残されない」ではないのか、再度検討していただきたい。	・国計画(P16)及び県計画(P27)においては、「誰一人取り残されない」との表現であることから、本市計画も「誰一人取り残されない」に変更する。 ※SDGsの理念については、「誰一人取り残さない」であるため、変更しない。
	全担当課 【第二章各論】	①指標に具体的な数値が出てきているが、その妥当性については、根拠を持って説明できるようにしていただきたい。 →全国学力調査等の現状の結果を見た上で、今後の成長を含めての指標としている。 ②表現は市民やこどもも読める表現を意識していただきたい。	①【全担当課】 別途指標に関する確認を行います。 ②用語解説をページ下部に設けることで、市民やこどもも読めると考えておりますが、各細施策で表現を変える必要があれば修正をお願いします。
	教育指導課 教育センター 【施策1】	①各指標において、全国学力調査等、学年を特定してしまう調査があるが、それを指標にすることが適切か検討いただきたい。 →該当学年のみになってしまうが、文部科学省等、国も使用している数値であり、他の数値で適当なものがない。 ②学校任せになってしまうように感じてしまう細施策がいくつかあると感じている。教育委員会がフォローしていくといった含みを持たせる文言を記載すべきである。 →学校任せにしようという考えはない。そのことが伝わるように文言を調整したいと考えている。	①(教育指導課)該当学年のみになってしまうが、国が行っている調査であり、全国と比べ本市の状況を測ることのできる調査であることも含め、適切であると考ええる。 (教育センター)CEFR A1の指標は確かに特定の学年(中3)になっているが、国も県も同様の指標をとっているため、適切であると考ええる。 ②(教育指導課)細施策シート修正済(施策1-(1)-①)(教育センター)「施策1-(3)-①英語指導助手の配置事業の充実」では、「各学校を訪問して指導及び支援を進めます。」という表現をしていたり、研修に係る内容は教育委員会が行う記述になっているりするので、文言は訂正する必要がないと考える。
	教育指導課 教育センター 中央図書館 学校給食課 【施策2】	①不登校のこどもたちは、だんだんと豊かな心と健やかな体が蝕まれてしまうものである。そのため、この施策2に施策4に記載されている不登校に関する内容を記載していただきたい。 →施策4に移動した理由としては、不登校に対しては、「豊かな心と健やかな体」だけでなく、学びの保障等、様々な案件にも対応しなくてはいけないと考えて、施策4にした。 →(委員)保護者の感じ方も含めて、施策2に記載することも検討していただきたい。 ②各施策の取組が記載されることで、より意思が感じられるようになった。前回の計画では、施策に指標をぶら下げていたが、今回からは細施策に指標をぶら下げた。これはよいことだと考えるが、細施策に合っていないものもあるのではないかと考える。 ③「一人一人」や「考え議論する道徳」等の表現は統一した方が良い。 ④「自己有用感」と「自己肯定感」はもう一度見直すべき。	①(教育センター) 不登校支援の推進は、登校が難しい児童生徒への学びの保障や社会的自立を目指した取組であり、「豊かな心と健やかな体」との相互の関連は踏まえつつも、目的や性質が異なるため、記載を分けた経緯がある。一人ひとりの状況に応じた支援に括することで、より多様な支援につながると捉え、第4次では施策4にしたいと考える。 ②(教育指導課) 指標については各種調査等から細施策に合った指標を設定していると捉えている。 ③(教育総務課) (教育指導課)「考え、議論する道徳」については、細施策シート修正済 ④(教育指導課) 細施策シート修正済
	全担当課 【施策4】	・細施策の順番は、特別支援教育に係る細施策が最後にあった方がよいのではないかと考えている。 →全体的なバランスもあるので、もう一度事務局で検討したい。	・(教育センター) 多様な教育的ニーズには、国や県が推進している「インクルーシブ教育システムの構築」がかかわっている。川越市としても特別支援教育が重要であると認識しているため、県の教育振興基本計画と同様に、細施策をこの順番で入れている。

第四次川越市教育振興基本計画【第三回審議会R7.10.6】第二章 指摘・質問事項に対する対応状況

指摘事項の一以下は当日の回答内容

資料1-6

※「黄色マーカー」:「細施策の方向性」欄について、文末表現の統一を図るため、事務局にて修正いたしました。
※「水色マーカー」:「指標」欄について、記載内容の統一を図るため、事務局にて指標説明文等の修正を行いました。

施策	施策の柱	細施策	担当課	指摘事項	対応状況もしくは回答内容
施策１ 確かな学力の育成	(１) 学力向上の推進	①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進	教育指導課		
		②ＩＣＴ活用の推進	教育指導課		
		③家庭学習の充実	教育指導課	①1日あたり1時間以上勉強で、川越市としてはよいと考えているのかは、よく検討していただきたい。 ②細施策の内容が、周知で終わっていると、周知の後は学校任せになっているように感じてしまう。例えば、ICT端末の中にアプリを入れるなど、教育委員会としての具体策を何か実施することがわかる文言があってもよいと考える。 ③経済的に大変な家庭においては、家で勉強できる環境がなく、こどもも忙しくなかなか勉強の時間を作るのが難しい家庭がたくさんあると感じている。この細施策を家庭にさせていくのは、難しいものだと考えている。	①③1日1時間以上の勉強を1つの目安(指標)としていきたいと考えている。 ②ご指摘を受けた教育委員会としての具体策については検討を進めているが、具体的な策については定まっていないため、そのような表現は記載していない。
	(２) 校種間連携の推進	①幼稚園・保育園・認定こども園・小学校の連携	教育指導課		
		②小中一貫教育の推進	学校管理課	・目標値として、100%でないが、これだと学校ごとに差が出ることを認めている、目指していないと読み取れてしまうので、100%でなくてはいけないのではないか。 →これまでの経年変化を踏まえた上で、この目標値を定めたとするのだが、もちろん100%を目指すべきことではあるため、検討したい。	・将来的には100%を目指した取組ではあるが、5年間という期間の中で現実的な目標値として設定したため「100%」とは設定していない。(目標値を変更)
	(３) グローバル化に対応する教育の推進	①英語指導助手の配置事業の充実	教育センター	・細施策の順番として、①と②は反対にしてもいいのではないかと考える。 →一体となって考えるものであるが、順番を反対にすることも検討する。	①は、全市立学校を対象として、「グローバル化に対応する教育の推進」を行う上で土台となる指導体制の充実のために行う。 ②は、①の取組も踏まえ、小・中学校の英語教育の充実のために行う具体的な内容について掲げる柱となる。 そのため、①→②の順番で記述することについて問題はないと捉える。 国の教育振興基本計画の目標4「グローバル社会における人材育成」の基本施策「外国語教育の充実」でも、英語指導助手も含めた人材配置などの指導体制について先に述べられている。 他市(越谷市、川口市、横浜市)の教育振興基本計画にも、英語教育に係る具体的な取組の前に英語指導助手(語学指導助手)の配置充実が述べられている。 このことから、①→②の順で問題ないと捉える。 また、事務局として細施策の順番に意味を持たせているわけではないので、変更の必要はないと考えます。
		②小学校・中学校英語教育の充実	教育センター		
	(４) 学校教育の情報化の推進	①情報活用能力の育成における情報技術の活用および特性の理解	教育指導課	①指標90%は高すぎないか。 →今後の重要度を考えて、高いとは思うが、達成したい目標として設定した。 ②AIの活用に関連して、近年どんどんこれによって世の中に大きな影響を及ぼしている。このAIについて、この細施策でなくても良いが、具体的にでもどこかで触れるべきだと考えている。 →5年後の見通せない世の中のことと考えて、不確定な情報は極力記載しないようにしている。しかしAI等の表現については、記載できないか再度検討する。	①今後の重要性を考え達成したい目標として設定した。 ②次期学習指導要領では情報活用能力の定義の一つに「生成AI等の基本的な仕組み等を理解」が含まれており、生成AIの活用は情報活用能力の育成の内容の一つとしてとらえている。 ・【その他担当課による修正】細施策の名称変更 →(変更理由)変更前の「情報活用能力の育成」は、次期学習指導要領に向けた論点整理において、情報活用能力の3つの要素からなる。細施策①は「情報技術の活用」と「情報技術の特性の理解」が本細施策にあてはまるため名称を変更した。
		②情報セキュリティ・モラルに関する資質・能力の育成情報技術の適切な取扱い	教育指導課	・①「情報活用能力の育成」とは別にこれを取り出して細施策にしている理由は何か。 →現状を考えたところ、情報セキュリティ・モラルが大切だと、教育委員会として考えているため。	・各校の現状を踏まえ、情報セキュリティ・モラルが重要であると教育委員会として考えているため。 ・【その他担当課による修正】細施策の名称変更 →(変更理由)次期学習指導要領に向けた論点整理において、情報活用能力の3つの要素のうち「情報技術の適切な取扱い」が本細施策にあてはまるため名称を変更した。細施策①②を合わせて「情報活用能力の育成」となる。
		③教育の情報化に関する推進体制の充実	教育指導課	・「サポート」について、学校現場のサポートが必要な職員のスキルも上がってきており、必要でなくなってきた部分もあるため、予算もあるので、 unnecessary 部分を削ることも考えていっていただきたい。	・デジタル技術が進むほど、安全にICTを活用する必要があるので、包括的なサポートから局所的に必要なサポートに向けて取捨選択することを検討していきたい。
		④ＩＣＴ環境の整備	教育指導課	・目標値の「6」とは何か。指標の説明がわかりづらい。 →項目数である。	・目標値に「整備済み」を追加。

第四次川越市教育振興基本計画【第三回審議会R7.10.6】第二章 指摘・質問事項に対する対応状況

指摘事項の→以下は当日の回答内容

資料1-6

※「黄色マーカー」:「細施策の方向性」欄について、文末表現の統一を図るため、事務局にて修正いたしました。
※「水色マーカー」:「指標」欄について、記載内容の統一を図るため、事務局にて指標説明文等の修正を行いました。

施策	施策の柱	細施策	担当課	指摘事項	対応状況もしくは回答内容
施策2 豊かな心と健やかな体の育成	(1) 豊かな心を育む教育の推進	①道徳教育の充実	教育指導課・教育センター		
		②規律ある態度の育成の推進	教育指導課		
		③伝統や文化に関する教育の充実	教育指導課	・ここの表現と施策9に記載されている表現を合わせ るべきである。 →表現を統一する。	・施策9との整合性を図っていきたい。(「歴史、伝統」 に変更。)
		④読書活動の充実	教育指導課・中央図書館	①学校に学校司書を配置し、学校図書館の充実を 図ります。とあるが、増やしていく予定なのか。 →増やしていく予定である。 ②現状と課題欄について、図書館の事業のみの表 記だと感じるため、学校現場の事業についても何か 記載できないか検討いただきたい。	①増やしていく予定である。 ②細施策シート修正済
		⑤体験活動の充実	教育指導課	・学校に協力している人が高齢化している。企業に 任せることも検討していただきたい。 →企業の出前授業の活用を現在考えている。	・企業の出前授業の活用を現在考えている。
	(2) 自己を肯定し他者を尊重できる心の育成	①いじめ防止対策の推進	教育指導課	・アンケート結果の「いじめは、どんな理由があっても いけない」と回答しなかった児童生徒が一定数いる。 この背景をしっかりと見ていってほしい。その場合、 この指標を使ってもいいのか疑問である。 →この一定数の児童生徒の背景については、教育 委員会としても追加で調査を行っている。その中 には様々な理由があるものだが、教育委員会として は、児童生徒全体に対しての働きかけという意図で この指標を達成できるように目標を定めたいと考 えている。	・この一定数の児童生徒の背景については、教育委員 会としても追加で調査を行っている。その中には様 々な理由があるものだが、教育委員会としては、児 童生徒全体に対しての働きかけという意図でこの指 標を達成できるように目標を定めたいと考えている。
		②「いのちの教育」の推進	教育指導課	①(1)①と同じ指標となっているが、この指標がこの 細施策にあっているのか。 →「自分にはよいところがある」というものは、様々 なエッセンスにて成長していくものとして、この指 標にした。 ②現状と課題欄の二つ目「保護者の積極的な参加 を呼び掛け」とあるが、何に参加を呼びかけるの か読み取れないのでわかるようにしてほしい。	①「自分にはよいところがある」というものは、様々 なエッセンスにて成長していくものとして、この指 標にした。 ②細施策シート修正済
	(3) 健康の保持増進と体力向上の推進	①学校保健活動の推進	教育指導課	①いのちの教育と内容が重なっており、整理すべ きだと考える。 ②課題とそれに対する方向性があっていないと考 える。 ③現状と課題について、「適切な解決に努めていま す。」は何を意図しているかわかりづらいため、別 の表現にした方がよい。	①いのちの教育と内容が重なる部分もあるが、本細 施策は学校保健活動を推進するための方向性等の視 点で示している。 ②細施策シート修正済 ③細施策シート修正済
		②食育の推進	学校給食課・教育指導課	①「小学校2年生だけでなく、」が唐突に出てくる ので、説明を加えたほうがよいと考える。 ②食育は全校で実施するものであるため、指標を 変更することも検討すべきである。 ③学校栄養士との連携についても表現したほうが いいのではないか。 →表現を変更する。	①「給食センター栄養士等が連携し」を入れると ともに他の教科でも食に関する指導と関連付け ていくこととします。 ②食育そのものは、全校で実施しているため、 給食センター栄養士等が連携して実施した食育 を指標とします。 ③細施策に表現させていただきます。
		③体力向上の推進	教育指導課		

施策	施策の柱	細施策	担当課	指摘事項	対応状況もしくは回答内容
施策3 自立する力の育成	(1) 進路指導・キャリア教育の充実	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実	教育指導課	・記載事項は中学校での取組だけのように感じる が、小学校での取組は何かないのか。 →メインは中学校である。小学校においては出前 授業もやっており、そのことも含んでいる。	・メインは中学校である。小学校においては出前授 業もやっており、そのことも含んでいる。
		②小学校・中学校・高等学校の系統的なキャリア教育の充実	教育指導課	・①と②は順番が反対の方がいいのではないか。	・細施策の順番変更、細施策シート修正済
	(2) 主体的に社会の形成に参画する力の育成	①主権者教育・消費者教育の推進	教育指導課	①「将来」ではなく、今からではないか。 ②「学校活動」ではなく「教育活動」が正しいの ではないか。 ③「啓発を図ります。」だけで問題ないのか。	①～③細施策シート修正済
		②環境教育の推進	教育センター・教育指導課		

第四次川越市教育振興基本計画【第三回審議会R7.10.6】第二章 指摘・質問事項に対する対応状況

資料1-6

指摘事項の→以下は当日の回答内容

※「黄色マーカー」:「細施策の方向性」欄について、文末表現の統一を図るため、事務局にて修正いたしました。
※「水色マーカー」:「指標」欄について、記載内容の統一を図るため、事務局にて指標説明文等の修正を行いました。

施策	施策の柱	細施策	担当課	指摘事項	対応状況もしくは回答内容
施策4 多様な教育的ニーズに対応した教育の推進	(1) 特別支援教育の充実	①一人ひとりの 教育的 ニーズに応じた指導や支援の充実	教育センター	・知的障害者手帳が取れないような児童生徒たちに対することもどこかに明記していただきたい。	・「児童生徒一人ひとり」や「全ての児童生徒」には、療育手帳(知的障害者に交付される手帳)を含む障害者手帳を交付されていないが、通常の学級や特別支援学級での支援や配慮が必要な児童生徒も含んでいると考えている。
		②就学支援の充実	教育センター	①「就学支援委員会の意見と異なる就学をしたケースについては、」の前に、学校と連携してといった、学校もかかわっていることも記載していただきたい。 ②「ニーズ」という言葉はないので、「教育的ニーズ」に変更すべき。 ③就学支援委員会では、やらないような内容も記載されているのでもう一度見直すべき。 ④就学支援委員会だけでなく、各学校の支援教室も含んだ施策にしていいただきたい。	①”就学支援委員会の意見”の中には学校からの情報も含まれているので、学校が関わっているものと捉えている。 ②”ニーズ”を”教育的ニーズ”に訂正する。 ③就学支援委員会だけのことではなく、”②就学支援の充実”という観点で幅広く方策を書いている。 ④支援教室(特別支援学級や通級指導教室等を指していると仮定)については”①一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実”や”③特別支援教育の理解・啓発の推進”の部分で含めている。
		③特別支援教育の理解・啓発の推進	教育センター	①「特別支援教育に対する理解には個人差があり、」という表現はいらないと感じる。 ②「特別支援に関わる人たちが、」は全職員ではないのか。 ③「特別支援教育に対して一定以上理解している」も表現として、伝わらないと考えている。 ④「交流学习、支援籍学習」等の表現も正しいか検討いただきたい。	①「特別支援教育に対する理解には個人差があり、」を削除する。 ②「特別支援に関わる人たちが、」を「全職員」に修正する。 ③「特別支援教育に対して一定以上理解している」を「特別支援教育についての知識や理解を深める」に修正する。 ④「交流学习」を「交流及び共同学習」に修正する。
	(2) 一人ひとりの状況に応じた支援	①多様化する学校内での教育的ニーズを解決する事業の推進	学校管理課	・学校の抱える課題が年々多様化、複雑化しており、」という表現はこれでいいのか。 →もう一度検討する。	・「学校教育を取り巻く諸課題は、多様化・複雑化の一途をたどっており、」に修正しました。
		②不登校支援の推進	教育センター	・「民間団体や民間施設を含む他機関、地域との連携を推進」は実現可能なのか。 →民間団体については、今まで二の足を踏んできたが、教育委員会としては今後この5年間でやっていこうと考える。	・不登校親の会をはじめとした団体等との連携を考えている。
		③教育相談の充実	教育センター		
		④教育機会均等化のための支援	教育総務課・教育財務課		

第四次川越市教育振興基本計画【第三回審議会R7.10.6】第二章 指摘・質問事項に対する対応状況

資料1-6

指摘事項の→以下は当日の回答内容

※「黄色マーカー」:「細施策の方向性」欄について、文末表現の統一を図るため、事務局にて修正いたしました。
※「水色マーカー」:「指標」欄について、記載内容の統一を図るため、事務局にて指標説明文等の修正を行いました。

施策	施策の柱	細施策	担当課	指摘事項	対応状況もしくは回答内容
施策5 教育の質を高める環境の充実	(1) 教職員の資質向上	①主体的に自身の専門性を伸ばす研修の充実	教育センター・学校管理課	①指標が2つに分かれているが、一つにまとめたほうがわかりやすいと考える。 →一つ目と二つ目で意図があって分けたものではあるが、分かりにくくなってしまうのであれば、統一も検討する。 ②「主体的」という表現を使っているが、読んでいると主体でなく、強制的に研修をさせているように感じてしまう。主体的にできるような環境づくりが大切だと考えている。 ③学校、児童生徒、地域、社会的状況の「学校」とは何を指していくのか。この中に保護者は入ってこないのか。	①達成度のみの指標にする。 ②教師が主体的に取り組むことができるよう対話に基づく受講奨励の推進とそれに対応した研修体制の整備を細施策に記載している。また、専門研修自体が教職員が希望して受講する研修であるため強制的なものではないと考えている。 ③学校は主に教職員を指すため、保護者は入っていない。保護者のニーズは地域、社会的状況のニーズの中に含んでいると考える。
		②各キャリアステージに応じた研修の充実	教育センター		
		③喫緊の教育課題の解決に向けた研修の充実	教育センター	・「学力向上」「ICTの活用」「ふるさと学習」以外に生徒指導や教育相談も重要だと考えており、表現を入れることができないか。 →他も大切だと考えており、今後の参考にさせていただく。	・特定研修は本市の喫緊の教育課題の解決に向けた研修であることからすべて重要であると考えているが、その中でも最重点として「学力向上」「ICTの活用」「ふるさと学習」としているため生徒指導・教育相談は表記していない。
		④教職員の働き方改革の推進	学校管理課	①「教育委員会と学校とが教職員の負担軽減についてともに研究する場をつくり」という表現はよいと考える。 ②「教員と専門性を持つ多様な職員等が協働し、チームとしての組織体制を強化することで、教職員一人ひとりの負担軽減を図ります。」という表現が簡潔すぎて、伝わらない。 →スクールカウンセラー等の専門的な知識を持つ職員にも体制のなかに入ってもらっていただき、一体となって取り組んでいくという意図で記載したが、より分かりやすい表現を検討する。 ③教職員に向けたあたたかいメッセージとなるような内容にしていっていただきたい。 →表現については再考したい。 ④働き方改革では、人だけでなく、学校や教育委員会がやっていくことを整理することも大切だと考える。	②「SC※やSSW※等専門性を持つ職員等が」に修正しました。 ③計画のため、メッセージ等は不要と考えますが、教職員に向けて、教育委員会が何をすべきなのか、④のとおり明確にしました。 ④「子供たちへのよりよい教育を実現するため、教育委員会において、「学校以外が担うべき業務」や「教師以外が積極的に参画すべき業務」について、具体的な計画を策定し、実行していきます。」に修正しました。
	(2) 魅力ある市立川越高等学校づくりの推進	①市立川越高等学校の活性化・特色化の推進	学校管理課・市立川越高等学校	①「少人数学級編成」の「成」の漢字は、「制」ではないのか。 →再度見直す。 ②指標の年間5回とあるが、現状は何回くらいか。 →現状は3回であり、5回を目標に実現したい。	①「少人数学級編制」をお願いします。 ②企業では、埼玉りそな、野村證券、JTBなど、大学等では、尚美学園大、武蔵丘短大などと連携。毎年、連携できるわけではないので、現状は3回程度であり、毎年5回を目標とする。
		②進路指導力向上のための教職員研修の充実	学校管理課・市立川越高等学校		
		③小学校・中学校・特別支援学校と市立川越高等学校連携の推進	学校管理課・市立川越高等学校	・市内生率については、なぜ削除したのか。 →この数値が独り歩きしてしまうことを防ぐため。	・市内生率は、毎年、変化する数値であり、より適切な表現としたため。
		④市立川越高等学校教育環境の整備・充実	市立川越高等学校		
	(3) 市立特別支援学校の充実	①市立特別支援学校の整備・充実	市立特別支援学校	①指標に保護者アンケートだけでなく生徒も入れていただきたい。 →検討する。 ②福祉教員免許の取得率についても、記載いただきたい。 →取得率については、教育委員会としても向上させたいので、考えていく。どこかに記載できないか検討する。 ③市立特別支援学校については、長期的に見ていかなくてもいけないことであり、この細施策については、「市立特別支援学校」だけでなく、教育委員会全体で考えていくべきことである。	①(市立特別支援学校) 校内でも検討しましたが、生徒の実態等を考慮すると、アンケートで生徒から指標を得ることは現時点では難しいという結論となりました。 ②(市立特別支援学校) 教育センターより、「取得率については、教育委員会としても向上させたいので、考えていく。どこかに記載できないか検討する。」との回答をいただいております。
		②市立特別支援学校のセンター的機能の充実	★教育センター・市立特別支援学校		